Dy-Mark 38023522 Mine Marking N/F Fluro All Colours

Dy-Mark

Chemwatch: **22-0917**
バージョン番号: **7.1.1.1**

Chemwatch危険有害性警告コード: **2**

発行日: **16/12/2014**
印刷日: **18/02/2015**
最初の発行日: **データ無し**
S.GHS.JPN.JA

セクション1　化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	Dy-Mark 38023522 Mine Marking N/F Fluro All Colours
同義語	データ無し
国連輸送名	エアゾール（容積が1Lを超え、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／（容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／
他の製品特定手段	データ無し

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	適用は、手持ちのエアゾール容器からのスプレー噴霧による。 製造者の指示に従い使用すること。

供給者の詳細

供給者の会社名称	Dy-Mark
住所	89 Formation Street Wacol 4076 QLD Australia
電話番号	+61 7 3271 2222
Fax番号	+61 7 3271 2751
ウェブサイト	データ無し
e-メール	info@dymark.com.au

緊急連絡電話番号

会社名	データ無し
緊急連絡電話番号	+61 403 186 708
その他の緊急連絡電話番号	データ無し

セクション2　危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

CHEMWATCH 危険等級

	Min	Max
引火性	**0**	
毒性	**2**	
身体に付着した場合	**2**	
反応性	**1**	
慢性毒性	**2**	

0 = 極小
1 = 低
2 = 中
3 = 高
4 = 極めて高い

GHS 分類	Aerosol Category 3, 急性毒性(経口)　区分4, 皮膚腐食性及び皮膚刺激性　区分2, 発がん性　区分2

GHSラベル要素

絵表示:

注意喚起語	**警告**

危険有害性情報

H229	高圧容器：熱すると破裂のおそれ
H302	飲み込むと有害
H315	皮膚刺激
H351	発がんのおそれの疑い

Continued...

注意書き: 安全対策

P201	使用前に取扱説明書を入手すること。
P210	熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。 – 禁煙。
P251	使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
P280	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

注意書き: 応急措置

P308+P313	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
P301+P312	飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
P302+P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹸）で洗うこと。
P330	口をすすぐこと。

注意書き: 保管(貯蔵)

P405	施錠して保管すること。
P410+P412	日光から遮断し、50 ℃以上の温度にばく露しないこと。

注意書き: 廃棄

P501	内容物／容器を国/都道府県/市町村の規則に従い廃棄すること。

セクション3　組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重量]	名称
75-09-2	30-60	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）
データ無し	10-30	pigment and filler, non-hazardous
データ無し	1-10	resin, non-hazardous
811-97-2	10-30	1,1,1,2-テトラフルオロエタン

セクション4　応急措置

必要な応急措置の説明

眼に入った場合	エアゾールが眼に入った場合： ▸ 直ちにまぶたを指でよく開いて流水で眼を洗浄し、少なくとも15分間は水洗いを継続すること。 ▸ 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 ▸ 速やかに病院または医師のもとへ搬送すること。 ▸ 眼に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	固体やエアゾールミストが皮膚に付着した場合： ▸ 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▸ 産業用皮膚洗浄クリームで、付着した個体を取り除くこと。 ▸ 溶剤を使用しないこと。 ▸ 炎症がある場合には、医師の手当を受けること。
吸入した場合	エアゾール剤、フュームまたは燃焼生成物を吸入した場合： ▸ 新鮮な空気のある場所に移動させる。 ▸ 患者を横たわらせ、保温して安静を保つ。 ▸ 入れ歯のような人工器官は気道を塞ぐ恐れがあるので、可能であれば応急処置を始める前に取り外すこと。 ▸ 呼吸が浅い場合や停止している場合には、気道を確保し蘇生措置を行う。 ディマンドバルブを内蔵する蘇生器、バッグバルブマスク装置またはポケットマスクをを訓練通り使用することが望ましい。 必要であれば心肺蘇生を行う。 ▸ 病院または医者のもとへ搬送する。
飲み込んだ場合	通常の進入経路とは考えられていない。 ▸ 応急措置について、医師に相談すること。 ▸ 牛乳あるいは油を与えないこと。 ▸ アルコールを与えないこと。

医師に対する特別な注意事項

毒物（特別な治療体制が整っていない場合）：

基本的治療

- 必要であれば吸引し、気道を確保すること。
- 呼吸不全の兆候に注意し、必要であれば換気の補助をすること。
- 非再呼吸マスクで毎分10～15リットルの酸素を与えること。
- 肺水腫の有無を観察し、必要であれば治療を施すこと。
- ショック症状を観察し、必要であれば治療を施すこと。
- 発作に備えること。
- 吐剤を**使用しない**こと。飲み込んだ可能性がある場合には口内をすすぎ、飲み込むことができ、咽頭反射が強く、垂涎のない患者に対しては、200ml以下の水（5ml/kgが推奨される）を与え希釈する。

Continued...

高度な治療

- 意識のない患者の気道確保に際して、または呼吸が停止した場合、経口または経鼻気管内挿管を検討すること。
- バッグバルブマスクを使用した陽圧換気が有用なことがある。
- 不整脈を観察し、必要であれば治療を施すこと。
- 5%ブドウ糖輸液を開始できるように静脈ラインを確保すること。循環血液量不足の兆候が見られる場合には、乳酸リンゲル液を使用すること。過剰輸液が合併症を引き起こすことがある。
- 肺水腫に対しては、薬物治療を検討すること。
- 循環血液量不足の兆候を伴う低血圧が見られる場合には、注意深く液体を投与すること。過剰輸液が合併症を引き起こすことがある。
- ジアゼパムを用いて発作を治療すること。
- 眼洗浄の補助には塩酸プロパラカインを使用すること。

BRONSTEIN, A.C. and CURRANCE, P.L.
EMERGENCY CARE FOR HAZARDOUS MATERIALS EXPOSURE: 2nd Ed. 1994
フロン／ハロンによる毒性が生じた場合：

A: 応急処置および支持療法
- 気道を確保し、必要であれば換気の補助をすること。
- 意識障害および不整脈が生じた場合は処置を施すこと。心室性不整脈を促進する恐れのあるエピネフリン（アドレナリン）または他の交感神経興奮性アミンの使用を避けること。心筋感作増加による頻脈性不整脈には、プロプラノロール（1～2mg注射、または毎分エスモロール25～100μg/kg注射）投与が有効な場合がある。
  - 心電図で4～6時間監視すること。

B: 有効な薬剤および解毒剤:
- 特に特定されている解毒剤はない。

C: 除染方法
- 吸入： 汚染現場から退去させ、酸素がある場合は酸素補給させること。
- 経口摂取： (a) 病院への搬送前: 活性炭がある場合は、それを投与すること。体内吸収が早く、中枢神経系を抑制する危険性があるため、**嘔吐を誘発しないこと**。 (b) 病院への搬送後: 有効性は知られていないが、活性炭を投与すること。大量に摂取した場合および摂取してから30分以上経過していない場合に限り、胃洗浄を行なうこと。

D: 排泄促進:
- 利尿、血液透析、血液潅流または活性炭の反復投与の有効性を示す研究データはない。

"POISONING and DRUG OVERDOSE, Californian Poison Control System Ed. Kent R Olson; 3rd Edition"
- 交感神経興奮様薬は、心筋の被刺激性を増進させる危険性があるため、絶対に必要でない限り使用を控えること。
- 解毒剤の指定は特にない。
- 誤嚥により急速な肺吸収および全身性の障害が生じることがあるため、嘔吐を誘発するか否かの判断は、医師に任せること。
- 洗浄する際は、器官および／または食道の管理も行うことを推奨すること。
- 胃を空にする際、誤嚥による毒物の体内吸収を考慮する必要がある。
- 患者の症状に応じた医師の判断をもとに治療すること。

対症療法を行うこと。

セクション5　火災時の措置

消火剤

	小規模火災： ▸ 水スプレー、乾燥化学粉末または二酸化炭素 **大規模火災：** ▸ 水スプレーまたは霧

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	▸ 発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。

消火活動に関する情報

特有の消火方法	▸ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。 ▸ 激しくまたは爆発的に反応することがある。 ▸ 呼吸装置および保護手袋を着用すること。 ▸ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。
火災及び爆発の危険性	▸ 不燃性である。 ▸ 火災が起こる危険性が非常に高いとは考えられていない。 ▸ 加熱時の膨張または分解により、容器が激しく破裂することがある。 ▸ エアゾール缶は裸火に触れると爆発することがある。

セクション6　漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置

小規模漏出の場合	▸ 直ちに全ての漏出物を除去すること。 ▸ 蒸気の吸入、皮膚および目との接触を避けること。 ▸ 保護衣、不浸透性の手袋および安全メガネを着用すること。 ▸ 全ての発火源を除去し、換気量を増やすこと。
大規模漏出の場合	▸ 可能な場合、漏えいしているシリンダを安全な場所に移動すること。 ▸ 安全性が確保できる環境でバルブを開け、容器内圧力を抜くこと。 ▸ バルブに過剰な圧力をかけないこと。破損しているバルブの使用を試みてはならない。 ▸ 現場から人員を退去させ、風上へ移動させること。

	個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7　取り扱い及び保管上の注意

安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	▸ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。 ▸ ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。

Continued...

	▸ 換気の良い場所で使用すること。 ▸ 窪地および排水だめでの濃縮を避けること。
他の情報	▸ 缶の腐食防止のため、湿気厳禁。腐食により容器に穴が開き、内圧により缶の内容物が噴出することがある。

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	▸ アルミニウムまたはメッキした容器を使用**しない**こと。 ▸ エアゾール容器。 ▸ 容器に明確なラベルが貼り付けられているか確認すること。
避けるべき保管条件	ハロアルカンは反応性が高い。 より容易に置換された低級メンバーのうちのいくつかは、高度に可燃性である。 軽い二価金属との反応は、グリニャール試薬に似たより反応的な化合物を生じるかもしれない。 金属または他のアジ化物との長期接触は、爆発性化合物を生じるかもしれない。 BRETHERICK L.: Handbook of Reactive Chemical Hazards アルコールおよび水から隔離すること。 ▸ 圧縮ガスは、ガスが他の物質と反応して生成するエネルギー量をはるかに上回る運動エネルギーを有していることがある。

\+ X + X X +

X — 混在させないこと。
0 — 特定の安全対策をとるならば、混在させてもよい。
+ — 混在させてもよい。

不適切な容器包装材料

データ無し

セクション8　ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会：許容濃度	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	ジクロロメタン	170 mg/m3 / 50 ppm	データ無し	340 mg/m3 / 100 ppm	データ無し
作業環境評価基準：管理濃度	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	ジクロルメタン（別名二塩化メチレン）	50 ppm	データ無し	データ無し	データ無し

緊急ばく露限度

成分	物質名	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
methylene chloride	Methylene chloride; (Dichloromethane)	データ無し	データ無し	データ無し
tetrafluoroethane	Tetrafluoroethane, 1,1,1,2-; (HFC 134a)	データ無し	データ無し	データ無し

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	10,000 ppm	2,000 ppm
pigment and filler, non-hazardous	データ無し	データ無し
resin, non-hazardous	データ無し	データ無し
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	データ無し	データ無し

ばく露管理

適切な工学的管理方法	工学的管理（設備対策）は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理（設備対策）により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。 工学的管理（設備対策）の基本: 工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。 放出源の密閉および／または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。 雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。
個人保護措置	
眼/顔面の保護	軽度のばく露（少量を扱う場合など）に備え特別な保護具を着用する必要はない。 中程度あるいは重度のばく露の可能性がある場合： ▸ サイドシールド付きの保護メガネ ▸ 注記：コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある。ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収することがあり、どのコンタクトレンズも物質を濃縮させる。
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。

Continued...

手/足の保護	▸ 軽度のばく露（少量を扱う場合など）に備え特別な保護具を着用する必要はない。 ▸ **それ以外の場合：** ▸ 中程度のばく露の可能性がある場合： ▸ 軽量ゴム手袋などの一般的な保護手袋を着用すること。 ▸ 重度のばく露の可能性がある場合： ▸ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋および安全靴を着用すること。
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。
他の保護	▸ 防護用密閉服（つなぎ型） ▸ 洗眼用設備 ▸ 保護クリーム ▸ 皮膚洗浄クリーム
高熱の危険性	データ無し

推奨される材料

グローブセレクションインデックス

手袋の選択は、「Forsberg 衣類性能指数（Clothing Performance Index）」の改訂版に基づく。
コンピュータによる選択に際して作用が考慮されている物質：

Dy-Mark 38023522 Mine Marking N/F Fluro All Colours

物質	CPI
PE/EVAL/PE	A
PVA	A
TEFLON	B
BUTYL	C
CPE	C
NATURAL RUBBER	C
NEOPRENE	C
VITON	C
VITON/BUTYL	C
VITON/CHLOROBUTYL	C

* CPI - Chemwatch Performance Index（性能指数）
A：最良
B：満足（4時間連続して浸漬すると、劣化することがある）
C：不良または危険（短期的な浸漬の場合を除く）
注意：様々な要因が手袋の性能に影響を与えるため、詳細にわたる観察に基づき最終的決定を下す必要がある。
＊手袋を短期間またはごくまれに使用する場合、「感触」や使い勝手（例：廃棄性）等の要素が手袋の選択に影響を与え、長期のあるいは頻繁な利用に適さない手袋が選択されることがある。資格のある専門家に相談すること。

呼吸器の保護

AX タイプフィルタ（十分な容量を有するもの）

呼吸ゾーンでのガス／粒子の濃度が「暴露基準」（またはES）に達するか、それを上回る場合、呼吸器保護が必要となる。
必要とされる保護の度合いは面体およびフィルターの等級によって異なり、保護の種類はフィルターのタイプにより異なる。

防護係数	ハーフフェイス呼吸器	フルフェイス呼吸器	電動ファン付き呼吸器
10 x ES	AX-AUS	-	AX-PAPR-AUS
50 x ES	エアライン*	-	-
100 x ES	-	AX-3	-
100+ x ES	-	エアライン**	-

*－連続流型　**－連続流型またはプレッシャーデマンド（陽圧）形

セクション9　物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	Coloured liquid; not miscible with water.

物理的状態	液体	**比重 (水 = 1)**	データ無し
臭い	データ無し	**n-オクタノール/水 分配係数**	データ無し
臭気閾値	データ無し	**自然発火温度 (°C)**	データ無し
pH (製品)	該当しない	**熱分解温度**	データ無し
融点 / 凝固点 (°C)	データ無し	**粘度 (cSt)**	データ無し
初留点及び沸点範囲 (°C)	データ無し	**分子量 (g/mol)**	該当しない
引火点 (°C)	データ無し	**味**	データ無し
蒸発速度	データ無し	**爆発性**	データ無し
引火性	データ無し	**酸化作用**	データ無し
爆発限界 - 上限 (%)	データ無し	**表面張力 (dyn/cm or mN/m)**	データ無し
爆発限界 - 下限 (%)	データ無し	**揮発成分 (%vol)**	データ無し
蒸気圧 (kPa)	データ無し	**ガスグループ**	データ無し
水溶解性 (g/L)	不溶	**溶液のpH (1%)**	該当しない
蒸気密度 (大気 = 1)	データ無し	**VOC g/L**	データ無し

Continued...

セクション10　安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	▸ 高温である。 ▸ 裸火が存在する。 ▸ 製品は安定していると考えられる。 ▸ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11　有害性情報

毒物学的影響に関する情報

吸入した場合	蒸気の吸入により、眠気および目まいが生じることがある。眠気、注意力の低下、反射能力の喪失、協調性の欠如および目まいを伴うことがある。 通常の取り扱い下で発生したエアゾール（ミスト、ガス）の吸入により、人への健康障害が生じることがある。 呼吸器刺激性を引き起こす可能性があることが認められている。このような刺激性に対する身体反応により、深刻な肺障害を引き起こす可能性がある。 ガスの吸入に共通する一般的な症状の例： ▸ 中枢神経系：うつ病、頭痛、混乱、めまい、進行性の昏迷、昏睡、けいれんなど。
飲み込んだ場合	物理的形状から判断し、有害性を有するとは通常考えられていない。 商業あるいは工業環境においては、まれな侵入経路であると考えられる。 誤飲すると有害のおそれがある。動物実験によると、150g以下の摂食で生命に危険となる、または人体に重大な健康障害を生じることがある。
皮膚に付着した場合	皮膚への接触直後または一定時間経過後に、重度の皮膚炎を引き起こすことがデータにより示唆されている。反復ばく露により、発赤、腫れおよび水疱形成を特徴とする接触性皮膚炎を生じることがある。 反復ばく露により、通常の使用条件下でも、皮膚のひび割れ、剥離または乾燥が生じることがある。 噴霧は、不快感の原因となることがある。 開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。
眼に入った場合	研究データまたは実際の経験により、眼刺激を誘発することが示唆されている。目への長期ばく露は、一過性の結膜発赤（風焼けの症状と同様）を特徴とする炎症を引き起こすことがある。 ガスの揮発性が非常に高いため危険性を有するとは考えられていない。
慢性毒性	がんまたは突然変異を生じる懸念があるが、評価材料となるデータが不足している。 ガスへの主な職業ばく露経路は吸入である。

Dy-Mark 38023522 Mine Marking N/F Fluro All Colours	**毒性**	**刺激性**
	データ無し	データ無し
ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	**毒性**	**刺激性**
	吸入（ラット）LC50: 76 mg/L/4H[2]	Eye(rabbit): 162 mg - moderate
	経口（ラット）LD50: 985 mg/kg[2]	Eye(rabbit): 500 mg/24hr - mild
	経皮（ラット）LD50: >2000 mg/kg[1]	Skin (rabbit): 100mg/24hr-moderate
		Skin (rabbit): 810 mg/24hr-SEVERE
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	**毒性**	**刺激性**
	吸入（ラット）LC50: 1500 mg/L/4h[2]	データ無し
凡例:	*1ヨーロッパECHA登録物質から得られた値 - 化学物質の毒性作用の登録 - 。急性毒性、特に指定のデータはRTECSから抽出しない限りは製造者のMSDSから入手した2値*	

Dy-Mark 38023522 Mine Marking N/F Fluro All Colours	中程度の眼刺激性を有し、炎症を引き起こすことがある。刺激性物質への反復または長期ばく露は、結膜炎を引き起こすことがある。 長期または反復ばく露により、皮膚に重度の刺激を与えることがあり、皮膚に接触した場合、皮膚の発赤、腫れ、小水疱形成、落屑および肥厚を引き起こすことがある。反復ばく露では、深刻な潰瘍を形成することがある。
ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	中程度の眼刺激性を有し、炎症を引き起こすことがある。刺激性物質への反復または長期ばく露は、結膜炎を引き起こすことがある。 長期または反復ばく露により、皮膚に重度の刺激を与えることがあり、皮膚に接触した場合、皮膚の発赤、腫れ、小水疱形成、落屑および肥厚を引き起こすことがある。反復ばく露では、深刻な潰瘍を形成することがある。 警告：IARCにより、グループ2B「ヒトに対して発がん性がある可能性がある」物質に分類される。 Inhalation (human) TCLo: 500 ppm/ 1 y - I Eye(rabbit): 10 mg - mild
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	* with added oxygen - ZhongHao New Chemical Materials MSDS Excessive concentration can have a narcotic effect; inhalation of high concentrations of decomposition products can cause lung oedema.

急性毒性	✔	**発がん性**	✔

Continued...

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	✔	**生殖毒性**	⊘
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	⊘	**特定標的臓器毒性 - 単回ばく露**	⊘
呼吸器感作性又は皮膚感作性	⊘	**特定標的臓器毒性 - 反復ばく露：**	⊘
生殖細胞変異原性	⊘	**吸引性呼吸器有害性**	⊘

凡例: ✔ – 分類済み
✖ – 分類対象外/区分外/非該当
⊘ – 分類できない

CMRステータス

生殖毒性物質	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	ILO Chemicals in the electronics industry that have toxic effects on reproduction	
発がん性	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	日本産業衛生学会：発がん物質	Pending
眼に入った場合	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	労働安全衛生法：安衛則593条（眼障害防止用保護具を備えなければならないもの）	Dichloromethane (Methylene dichloride)
皮膚に付着した場合	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	Japan Occupational Exposure Limits - Skin	S

セクション12　環境影響情報

生態毒性

下水道または水路に排出**しない**こと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気
ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	低 (半減期 = 56 日)	高 (半減期 = 191 日)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	高	高

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	低 (BCF = 40)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	低 (LogKOW = 1.68)

土壌中の移動性

成分	移動性
ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	低 (KOC = 23.74)
1,1,1,2-テトラフルオロエタン	低 (KOC = 96.63)

セクション13　廃棄上の注意

廃棄方法

製品／容器／包装の廃棄方法	▸ 器具の洗浄に用いた洗浄水は排水路に流入**させない**こと。 ▸ 器具の洗浄に用いた洗浄水は、排出する前にすべて回収し適切な処理を施す必要がある。 ▸ 下水道への排出は国内法規制の対象となることがあるため、常に、その国内法規制の要件を考慮しなければならない。 ▸ 不明な点は、担当当局に問い合わせること。

セクション14　輸送上の注意

要求されるラベル

海洋汚染物質	いいえ

陸上輸送 (UN)

国連番号	1950
容器等級	該当しない

Continued...

国連輸送名	エアゾール（容積が1Lを超え、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／（容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／
環境有害性	関連するデータ無し
輸送時の危険性クラス	クラス: 2.2 サブリスク: 該当しない
使用者のための特別予防措置	特別規定: 63;190;277;327;344 制限容量: See;SP 277

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR)

国連番号	1950
容器等級	該当しない
国連輸送名	エアゾール（容積が1Lを超え、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／（容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／
環境有害性	関連するデータ無し
輸送時の危険性クラス	ICAO/IATAクラス: 2.2 ICAO / IATAサブリスク: 該当しない ERGコード: 2L
使用者のための特別予防措置	特別規定: A98A145A167A802 梱包指示 (貨物のみ): 203 最大数量/パック (貨物のみ): 150 kg 旅客および貨物包装方法: 203 旅客と貨物の最大個数/パック: 75 kg 旅客・貨物輸送機 制限容量 包装方法: Y203 旅客・貨物輸送機 最大制限容量 / 包装方法: 30 kg G

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee)

国連番号	1950
容器等級	該当しない
国連輸送名	エアゾール（容積が1Lを超え、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／（容積が1L以下で、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。）／
環境有害性	該当しない
輸送時の危険性クラス	IMDGクラス: 2.2 IMDGサブリスク: See SP63
使用者のための特別予防措置	EMS番号: F-D , S-U 特別規定: 63 190 277 327 344 959 制限容量: See SP277

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

出典	成分	汚染カテゴリー
IMO MARPOL 73/78 (Annex II) - List of Noxious Liquid Substances Carried in Bulk	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	Y

セクション15　適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

ジクロロメタン（別名塩化メチレン）(75-09-2) に関する適用法令	"作業環境評価基準 管理濃度（英語）","航空法：施行規則第194条（毒物類）","労働安全衛生法：第28条第3項（厚生労働大臣が定める化学物質）","日本　GHS分類","港則法：化学廃液","日本産業衛生学会 許容濃度 (英語)","日本 労働安全衛生法－名称等を表示すべき有害物質","日本化審法 - 第二種監視化学物質（英語）","日本毒物および劇物取締法 - 政令（第2条）劇物（英語）","日本 労働安全衛生法－通知対象物（日本語）","作業環境評価基準：管理濃度","船舶安全法　-　毒物　（日本語）","労働安全衛生法：第57条の5（変異原性が認められた既存化学物質）","日本化審法 - 第三種監視化学物質（英語）","日本産業衛生学会：許容濃度","日本 GHS分類（英語）","国際がん研究機関（IARC） - IARC モノグラフによって分類エージェント","化審法：既存化学物質・新規告示物質","労働安全衛生法(ISHL) - 有機溶剤中毒予防規則（英語）"
1,1,1,2-テトラフルオロエタン(811-97-2) に関する適用法令	"日本　GHS分類","日本 船舶安全法－高圧ガス（日本語）","航空法：施行規則第194条（高圧ガス）","日本 港則法－危険物（日本語）","化審法：既存化学物質・新規告示物質"
労働安全衛生法	**名称等を通知すべき危険物及び有害物** **法第57条の2・文書の交付** **政令名称** / **政令番号**

Continued...

	ジクロロメタン（別名二塩化メチレン） 257

名称等を表示すべき危険物及び有害物

政令名称	政令番号
ジクロルメタン（別名二塩化メチレン）	１４の７

製造の許可を受けるべき有害物

政令名称	政令番号
該当しない	該当しない

危険物 - 酸化性の物	該当しない
危険物 - 引火性の物	該当しない
有機溶剤	該当しない
特定化学物質	該当しない

化管法
-

分類	政令名称	政令番号
第1種指定化学物質	ジクロロメタン（別名塩化メチレン）	186

毒物及び劇物取締法 医薬用外劇物

化審法

優先評価化学物質	該当しない
第1種特定化学物質	該当しない
第2種特定化学物質	該当しない
監視化学物質	該当しない
一般化学物質	ジクロロメタン（別名塩化メチレン），１，１，１，２－テトラフルオロエタン

セクション16　その他の情報

他の情報

製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。
委員会で使用した文献等の出典については、www.chemwatch.net/referencesをご覧ください。

(M)SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。 掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。 暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。 使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

当データシートは著作権により保護されており、著作権法により許可される個人 的な研究、リサーチ、批評もしくは論評等公正な目的に使用する以外に は、ケ ムウォッチ(TEL: +61 3 9572 4700)からの書面による許可が無い限り、いかなる 部分の複製も方法を問わず禁じられています。